

資料 4

シンポジウムの結果概要

・ 2025年2月2日に第3次安芸高田市総合計画シンポジウムを開催し、参加者数は150名となります。



第3次安芸高田市総合計画シンポジウム

安芸高田市の まちの未来を 若者と語る日

藤本市長と18人のパネリストが
安芸高田市のこれからについて語り合います。

2025.2.2[sun]
13:30-16:30(開場13:00)

会場 安芸高田市民文化センター
クリスタルアージュ 文化ホール
(安芸高田市吉田町吉田761)
お子様とともに視聴可能な親子室もございます。

**参加
無料**

**申込
不要**

お問い合わせ⇒安芸高田市企画部政策企画課 電話:0826-42-5612(平日8:30-17:15)

安芸高田市の
まちの未来を
若者と語る日

市長コメント

安芸高田市では、「総合計画」の策定を進めています。総合計画は、今後20年先(子や孫の次世代)を見据えた「まちづくり」の最上位計画です。現在、市民のみなさまの意見を聞きながら、検討しているところです。本シンポジウムでは、次世代を担う学生や、地域で挑戦・活躍する若者、安芸高田らしさを体現する多様な方々に登壇いただきます。本シンポジウムを通じて、次世代を担う若者のチャレンジを後押しする機運の醸成や、安芸高田市の未来への期待感を、市民のみなさまと一緒に作りあげ、共有していきたいと思っています。ぜひ、本シンポジウムにご参加いただき、安芸高田市の未来について、一緒に考えていきましょう！

安芸高田市長 藤本悦志

プログラム

基調講演	久保田夏菜氏	安芸高田市への期待
提案発表	広島県立吉田高等学校	学生が市長に提案する地域の魅力化事業
パネルディスカッション	～学生と考える市の未来～	
	市長×高校生	
	高校生	学生が考える地域の魅力化事業の実現化
	休憩	
パネルディスカッション	～世代を超えて共通する安芸高田らしさ～	
	市長×アイデンティティ	
	久保田夏菜氏	テーマ1:
	下岡佑也氏	世代を超えて共通する安芸高田らしさ
	稲田幸久氏	テーマ2:
	秋本哲治氏	世代を超えて共通する安芸高田らしさを、
	稲田浩氏	未来に受け継ぐには
パネルディスカッション	～若者と考える市の未来～	
	市長×若者の挑戦×サポート	
	金廣愛璃氏	テーマ1:
	中村博之氏	若者が考える未来に向けたチャレンジ
	松川拓馬氏	テーマ2:
	本多正樹氏	若者のチャレンジを応援し、
	熊高順八氏	称賛するまちにするには
パネリスト		
	久保田夏菜氏	フリーアナウンサー
	下岡佑也氏	NEXTひろしま神楽プロジェクト 代表理事
	稲田幸久氏	安芸高田市国際交流協会 事務局長
	秋本哲治氏	安芸高田市歴史民俗博物館 副館長
	稲田浩氏	サンフレッチェ広島ユース三矢 寮長
	金廣愛璃氏	地域おこし協力隊(ふるさと納税)
	中村博之氏	地域おこし協力隊(ジビエ肉加工品)
	松川拓馬氏	地域おこし協力隊(高校魅力化)
	本多正樹氏	安芸高田市地域法人協議会 会長
	熊高順八氏	安芸高田市商工会青年部 常任委員

ファシリテーター

渡邊一成氏 福山市立大学 教授

基調講演

- ・「**この町が好き**」という人で溢れてほしい。好きという思いが積極的な地域活動や安芸高田市を守ってくれる力になる。
- ・縮小する社会の中でも**充実した社会**を目指していこう。今あるものを大事にし**安芸高田の魅力**を育てていくことが、「この町」が好きに繋がるのでは。
- ・**自分を育てる、不便さの転換、子供を育てる**。この3つを実現できたらこの町が好きという思いにつながる。
- ・「どうせ」から「せっかく」に。一人一人の思いが形にできる町であってほしい。



久保田氏 講演風景

「この町が好き！」は何を生む？

“今あるもの”

“自分”

“子ども”

“この町が好き！”という市民が増えたら…

- ・ 積極的な地域活動
- ・ 発信したい魅力の増加
- ・ 交流人口、関係人口の増加



わたしたち1人1人の手で
今の暮らしを守ることができる！

✿ フリーアナウンサー

講演資料一部抜粋

提案発表

- ・人が少なく、若者も少ない。**中途半端な田舎**。そんな安芸高田市を変えるため考えた計画「**ど田舎高級化**」。
- ・計画達成のためのテーマ「**中途半端がちょうどいい、ちょっといいまち、安芸高田**」。
- ・①**情報発信**や**地域体験ツアー**で地域の知名度を向上させ、②**ホテル事業、グランピング事業**を展開。③**お試し居住、お試し教育、仕事の斡旋**で移住を促進する。
- ・「**郡山城まるごとホテル**」で**安芸高田市に来る目的**を作る。コンセプトは「**地域の裏山、城でした**」。毛利元就、神楽で文化を体験など、**地域の特別感を体感できるホテル**。
- ・チラシ、SNS、You Tube、新聞等、**様々なメディア**で**情報発信**をしていく。
- ・市がどのように変化を遂げていくかが楽しみ／離れても戻ってきたいと思える地域に自らしたい／町に残り他県や広島市内の人に自慢できる町にしたい／町がなくなることは悲しいと気づいた／安芸高田市を変えたいという思いが芽生えた／人口減少問題につながるので実現してほしい。



講演概要メモ

- ・ **市長**：感動した。まるごとホテル、考えたこともなかった奇抜なアイデア。国の史跡なのでホテルにできるか等の課題もあるが段階を踏みながら 市の方でも検討していきたい。
- 【苦労した点は？】
- ・ **山田**：発表にあたり苦労したことはない。楽しみながらできた。
- ・ **日高**：ツアー造成は、どういう取り組みをすれば楽しんで町を知っていただけるか、なかなか案が出ず苦労した。
- 【安芸高田市への思い】
- ・ **藤原**：これまで知らなかったが、魅力が多くポテンシャルのある町だと感じた。安芸高田市を最先端の地域復興の拠点としながら全国にこういう活動が広まってほしい。
- ・ **木坂**：大学生になってもプロジェクトに参加し、自分の得意なことで発信していきたい。
- ・ **増岡**：高校生のうちに提案を実現し、大学卒業後も帰って来たいと思える町にしたい。
- ・ **市長**：マイナスと思える点を逆手にとって打って出る取り組みが必要だと感じた。今後も安芸高田市のために関わり続けていきたい。



問 私は〇〇を大事にしたいから、〇〇になってほしい

久保田：子供・自然を大切にしたいから、子供が育つまちになってほしい

自然は安芸高田市の財産。**子供と自然のマッチング**。自然体験をしながらコミュニケーション能力を身につけることができる。地域にあるいろんな財産を上手く活かしていければ。

下岡：伝統と賑わいを大切にしたいから、神楽を自慢できるようにしていきたい

伝統芸能として守ることと賑わいを作っていく両輪が必要。**神楽を自慢できるもの**にしていきたい。いろんな事柄とも連携していきたい。

稲田(幸)：やさしさを大事にしていきたいから、外国人が住みたいまちNO.1になってほしい

安芸高田市は多文化共生が広島県内でトップクラス。**優しさに愛着を感じ、住み続けたい**と言ってくれる。**外国人が住みたいまちNO.1**になるぐらい優しいまちであってほしい。

秋本：元就ブランドは最強コンテンツ、市・市民が発信者・仕掛け人になってほしい

毛利元就は100年後も間違いなく残る最強コンテンツ。元就の聖地はここしかない。最近では地域に詳しい世代の方が亡くなり地域の歴史や文化が失われていっている。

稲田(浩)：スポーツに取り組む仲間を大事にしたいから、スポーツの健全な発展に取り組む町になってほしい

人は健康で元気でなければならない。横のつながりを作り**スポーツを通して豊かな町**になってほしい。もっと指導者が増え、子供たちがサッカーができる環境が増えると嬉しい。

市長：それぞれの**得意分野**を引き出せるようなまちづくりが必要だと思った。



問 若者が考える未来に向けたチャレンジ

金廣：まち 人を知る つくる

新鮮さと、参加して下さったみなさんがWin-Winになること大事にしている。

中村：鹿以外

ジビエを市内の人に食べてほしい。自分で完結せず、人の判断を伺うことを大事にしている。

松川：高校生活の魅力化

「生徒が」を主語にして考え、生徒が楽しめる学校生活の仕掛け作り、サポートをしている。

問 みんなのチャレンジを応援できるまちにしていくには

本多：行動

行動することで次の展開が進む。共有することで変化しベースができていく。

熊高：肯定

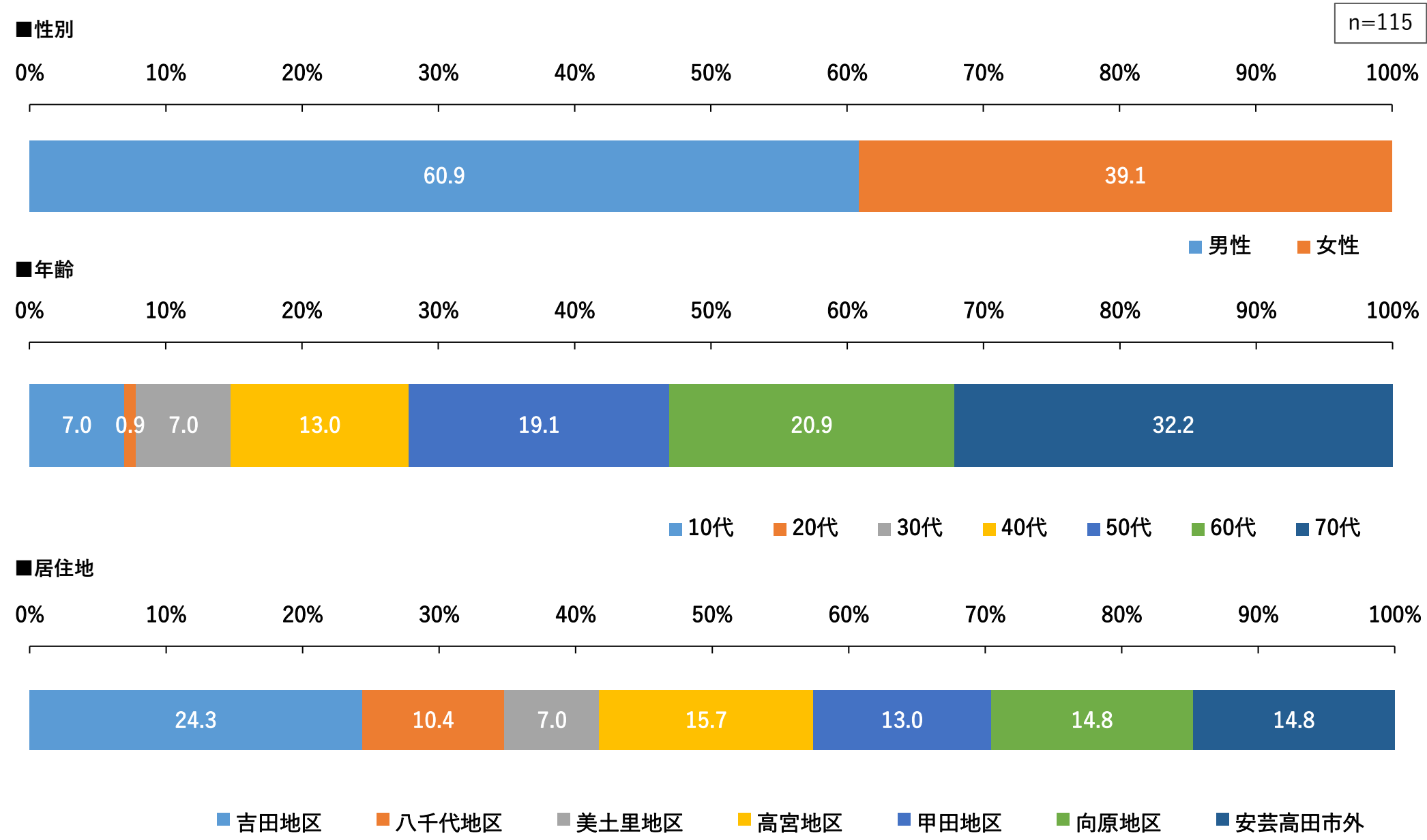
まずは肯定して認めてやってみる。特定の物事に夢中になれることは大事。

市長：肯定、行動、共有 が大事と感じた。マイナスなものを 肯定的に捉え、行動し、周りの人に 共有する ことが、魅力的で一人一人が好きになる安芸高田市につながる。



・シンポジウム参加者150名のうち、アンケート調査にご回答頂いた参加者は115名（約77%）となります。

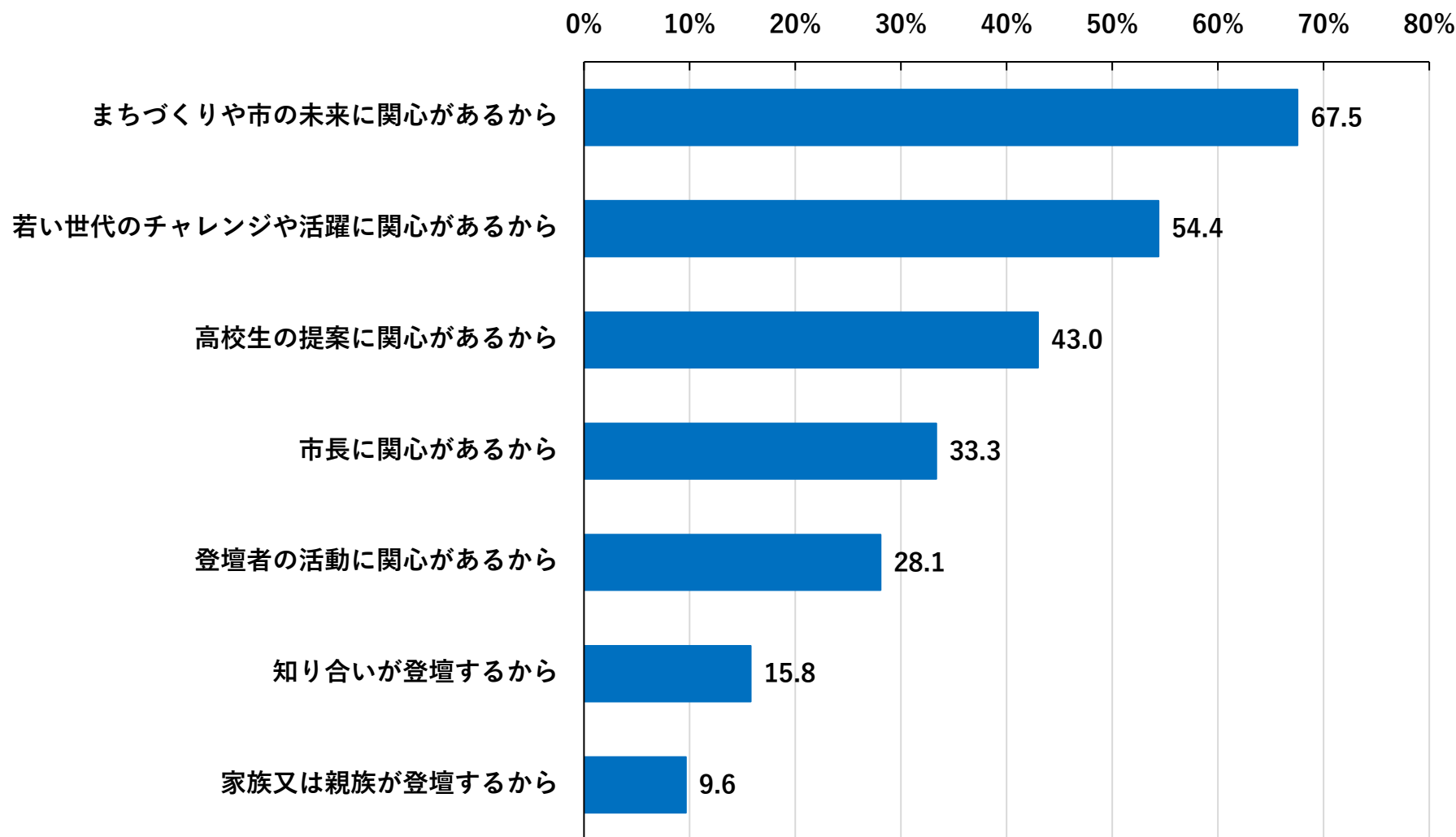
・参加者の基本属性は以下のとおりであり、60歳以上が半数を超えており、市外からの参加者も一定数存在します。



・シンポジウムに参加した理由としては、「まちづくりや市の未来に関心があるから」と回答する方が68%と最も多く、次いで、「若い世代のチャレンジや活躍に関心があるから」と回答する方が54%と多いです。

■今回のシンポジウムに参加した理由について、教えてください。（○はいくつでも可）

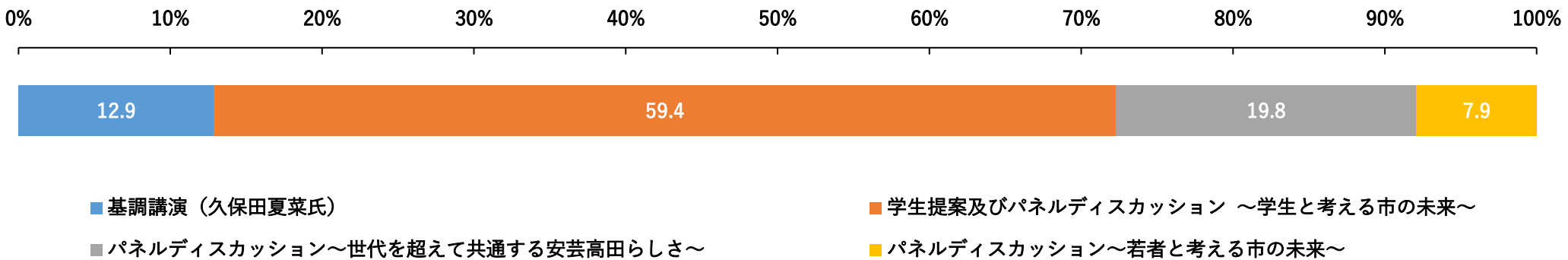
n=114



- ・印象に残ったテーマは「学生提案及びパネルディスカッション～学生と考える市の未来～」と回答の方が最も多いです。
- ・印象に残った点として、「高校生の自由で斬新な発想」と回答する方が20.5%と最も多く、次いで、「高校生の熱意・真っ直ぐな姿勢」、「高校生のポテンシャルの高さ」と回答する方が約10%と多いです。

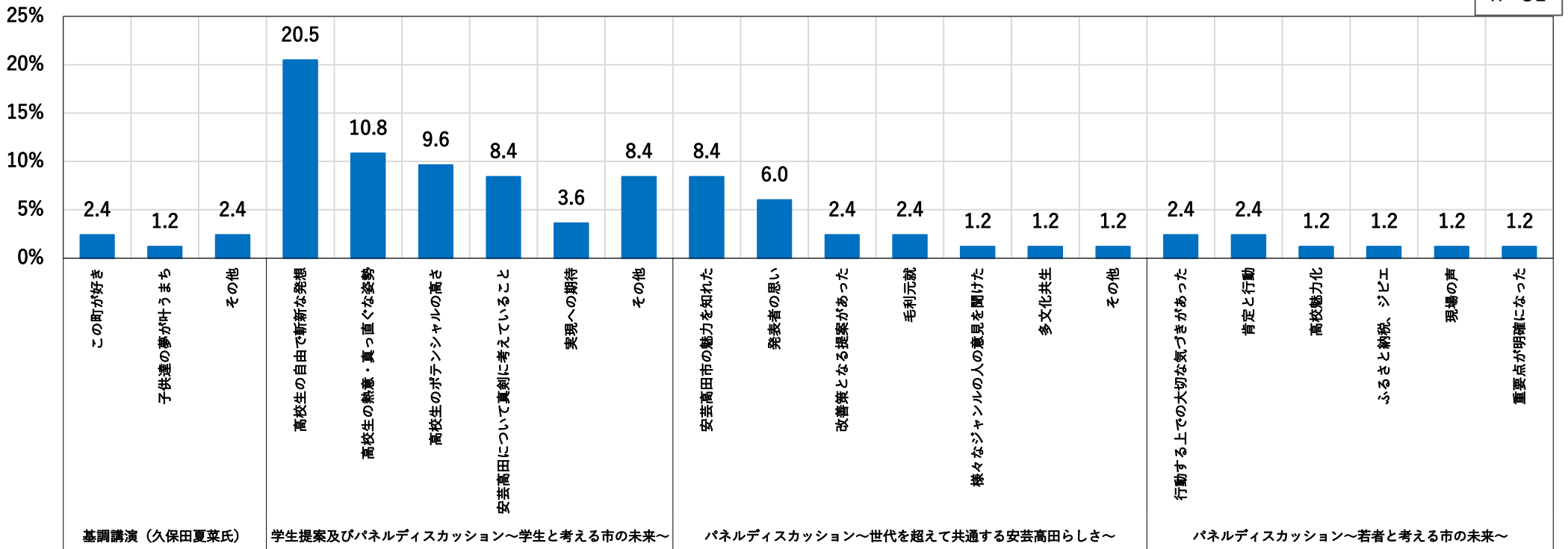
■今回のシンポジウムで、一番印象に残ったテーマを教えてください。（○は1つ）

n=101



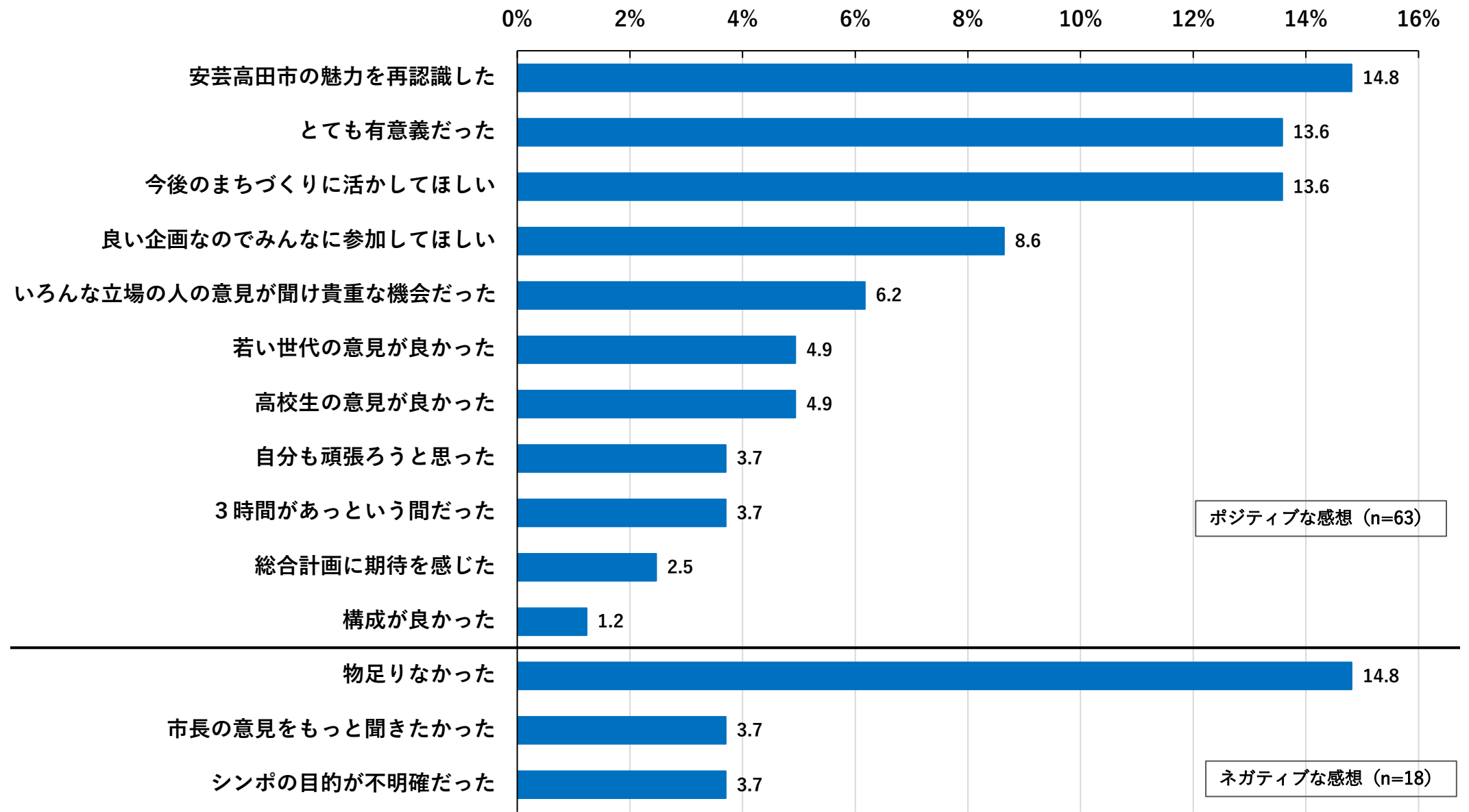
■一番印象に残ったテーマについて、どのような点が印象に残ったか、教えてください。（自由記述をカテゴライズして集計）

n=81



・シンポジウム全体を通じての感想としては、ポジティブな感想が多く、「安芸高田市に魅力を再認識した」に関わる意見が最も多く、「とても有意義だった」、「今後のまちづくりに活かしてほしい」という意見も多かったです。

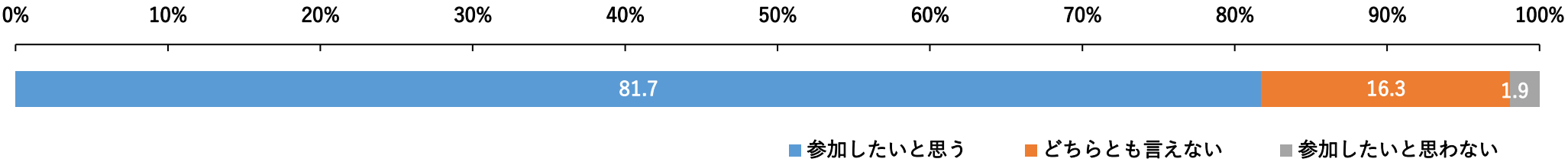
■シンポジウム全体を通じての感想について、教えてください。（自由記述をカテゴライズして集計）



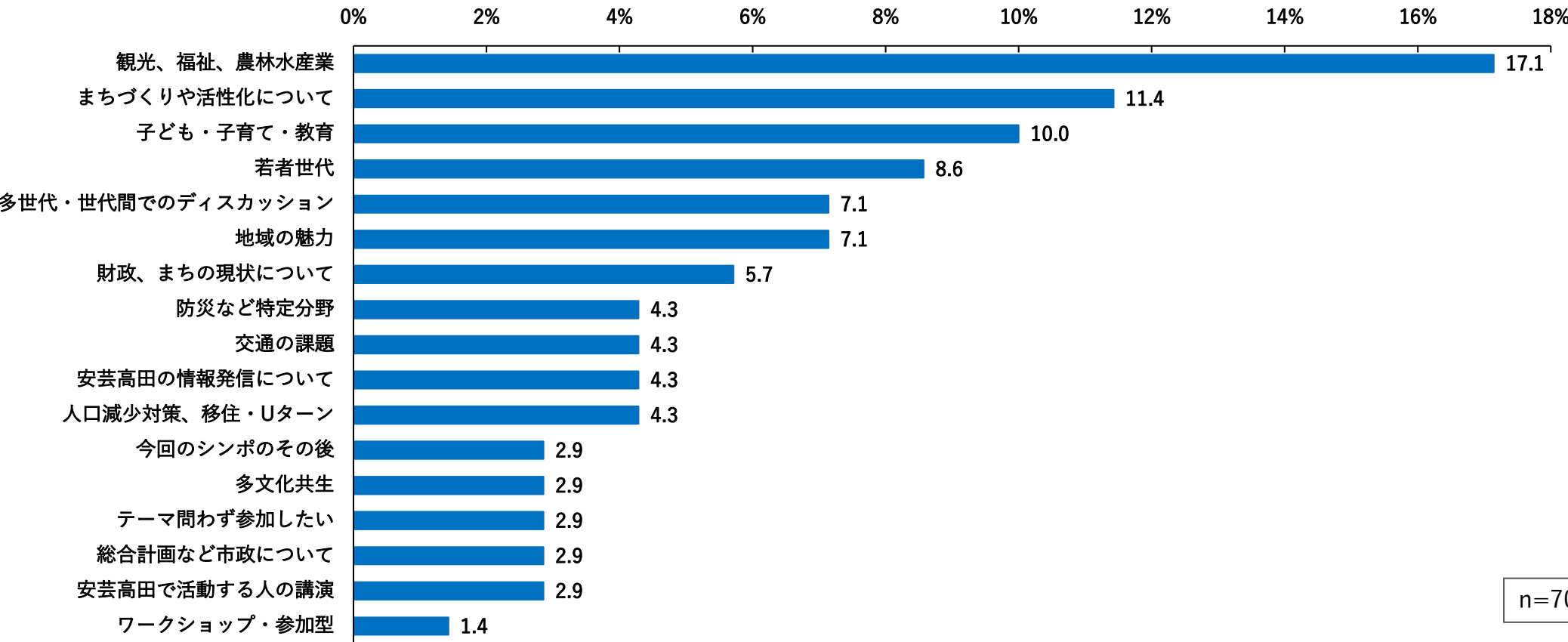
・定期的なまちづくりに係るシンポジウムがあれば、「参加したいと思う」と回答する方は約82%となります。

■今後、定期的なまちづくりに係るシンポジウムがあれば、あなたは参加したいと思いますか。（○は1つ）

n=104



■問 8 で「1. 参加したいと思う」と回答した方にお聞きします。どのようなテーマのまちづくりに係るシンポジウムがあると、良いと思いますか。（自由記述をカテゴライズして集計）



n=70